

ソフトウェアシンポジウム 2001 プログラム

6月12日(火)

会場:高知県立牧野植物園 (高知県高知市五台 4200-6, TEL 088-882-2601, http://www.makino.or.jp/)

10:00~10:30	チュートリアル受付	本館映像ホール
10:30~12:30	チュートリアル T1:PSP (Personal Software Process) 川下 敬之 (PSP Network)	
12:30~13:30	チュートリアル受付	<昼休み> 展示館オープン階段広場
13:30~16:30	チュートリアル T2: 携帯電話に対応可能な Java 分散オブジェクト技術 iHORB 大西 荘一(岡山理科大), 西本 圭佑(アイトレック)	(引き続き チュートリアル T1)

6月13日(水)

会場:高知会館(高知県高知市本町 5-6-42, TEL 088-823-7123)

8:30~9:00	シンポジウム受付	2F 鳳凰
9:00~9:15	オープニング	司会:熊谷 章(PFU)
9:15~10:15	特別講演 「モデルの図式表現とその意味:なぜ UML がはやるのか?」 多くのモデル化技法では、なんらかの図式表現を用いることが多い。UML はいって見れば、これまでソフトウェア開発で使われてきた数多くの図式の集大成というおもむきがある。 グラフ構造がよく用いられる理由は、図として視覚化することで「モデル」らしく見えること、対象となる世界の「もの」を頂点で表し、「もの」と「もの」との関係性を表すことにより、世界がグラフによって自然に表現されること、などであろう。しかし、グラフ構造が直感的に分かりやすいため、その「意味」に曖昧さや混乱が生じやすい。実際、状態遷移図やデータフロー図の概念を学生に説明すると比較的容易に理解するように見えるが、試しに図を描かせてみると、とても状態遷移やデータフローを表していないしろものができてしまうことがよくある。実は、学生ばかりでなく、かなりのベテランのソフトウェア技術者でもそういうケースを見かける。 この講演では、おなじグラフ構造であるという共通性と、その意味の違いを意識的に考えることの重要性を強調したい。モデル表現で用いられる図は、長い間に蓄積されたモデル化、設計などのノウハウの結晶であるともいえる。だからたとえば UML も、オブジェクト指向モデルの記述言語というより、モデル化や設計のノウハウを集めたものとして、捉えてみたい。	司会:松本 健一(奈良先端大) 玉井 哲雄(東京大学)
10:15~10:30	<休憩>	
10:30~12:30	セッション1:形式的方法 チュートリアル:「形式手法入門:形式仕様記述で何をどう書くか」 形式手法の概要と特徴を述べて、具体事例を基に何をどのように記述するか、並びに、その効用は何かについて述べる。 論文発表 「事務システムにおける形式仕様適用例」 「データベースアクセス最適化への抽象解釈の適用」	司会:山崎 利治(フリー) 荒木 啓二郎(九州大) 佐原 伸(日本フィッツ) 小室 睦(日立ソフトウェアエンジニアリング)
12:30~13:30	<昼休み>	
13:30~15:30	セッション2:パターン チュートリアル:「ソフトウェアパターンへのいざない」 デザインパターンやパターンランゲージに特化せず、一般的にソフトウェアパターンについて広く解説する。 パネル:「パターンの現状とこれから」 パネリスト:青山 幹雄(南山大), 羽生田 栄一(豆蔵), 藤野 晃延(インアルカディア), 友野 晶夫(エヌケーエクス)	司会:野呂 昌満(南山大) 青山 幹雄(南山大)
15:30~16:00	<休憩>	
16:00~18:00	セッション3:オープンソース パネル:「オープンソース・ソフトウェアの普及・発展戦略」 パネリスト:石井 達夫(日本 PostgreSQL ユーザ会), 大西 荘一(HORB-Open), 菊地 時夫(日本 Apache ユーザ会), 新部 裕(産業技術総合研究所), まつもと ゆきひろ(ゼータビッツ)	司会:林 香(SRA)
18:00~18:30	<休憩>	
18:30~20:30	情報交換パーティ 挨拶:楠瀬 昌彦(ソフトウェアシンポジウム 2001 実行委員長, 元高知大学教授)	3F 飛鳥

6月14日(木)

会場:高知会館(高知県高知市本町 5-6-42, TEL 088-823-7123)

9:00~12:00	セッション4 ネットワークセキュリティ 論文発表 「複数の組織に所属するユーザを支援するマルチロールコミュニケーターと権限の委譲機構」 「ポートスキャンログ分析からみたインターネットセキュリティの一考察」 報告 「原本保証システム」 「ポートスキャンログ分析からみたインターネットセキュリティの一考察」 パネル パネリスト:鈴木 裕信(ソフトウェアコンサルタント), 高木 浩光(産業技術総合研究所)	司会:中野 秀男(大阪市大) 張 小モウ, 鈴木 郁子, 神戸 尚志(シャープ) 鈴木 裕信(ソフトウェアコンサルタント) 司会:中野 秀男(大阪市大) 司会:菊池 豊(高知工科大)
12:00~13:00	<昼休み>	
13:00~15:30	セッション5 組込み制御システム開発 チュートリアル:「組み込みシステムとは何か」 従来のソフトウェア工学の研究成果を組み込みシステムに適用する際の問題点を明確にするという観点から、組み込みシステム開発の特徴について解説する。 論文発表 「組込みソフトウェア開発の一手法と適用」 パネル:「ソフトウェア工学は組み込みソフトウェアを教えるか?」 パネリスト:小山 明(日本電気テレコムシステム), 鈴木 郁子(シャープ), 張 漢明(南山大), 荒木 啓二郎(九州大) 他	司会:和田 喜久男(NEC 静岡) 高田 広章(豊橋技科大) 司会:高田 広章(豊橋技科大)
15:30~16:00	<休憩>	
16:00~18:30	セッション6 プロセス改善 論文発表 「ソフトウェアプロジェクトのリスク調査に基づくコストと期間の誤差予測とその統計的分析」 「プロセス成熟度向上に向けた生産管理データの活用事例」 「プロダクトとプロセスに基づいたプロセス改善策立案手法の開発と適用事例」 「静的解析ツールの導入によるテストプロセス改善への取り組み」 「大学におけるプロセス改善教育のあり方について -PSP 法実践の経験をもとに-」 報告 「SPI活動への取り組み(取り組み開始までの経緯)」 「複数組織でみるプロセス改善活動の成功と危機」	司会:高橋 光裕(電中研) 足立 卓也, 水野 修, 菊野 亨(大阪大学), 高木 徳生(オムロン) 島中 一俊, 古賀 順二(NTTコムウェア) 新原 直樹, 高木 徳生(オムロン), 岩田 之宏, 森下 裕史, 松浦 邦樹(オムロンソフトウェア) 菊地 奈穂美, 森下 忠雄(沖電気工業), 菊野 亨(大阪大学) 菅原 耕一(富士写真フイルム) 赤坂 幸彦(NTTデータ)
18:30~19:00	<休憩> (SEA 総会)	
19:00~21:00	BOF	

ツール
展示

Work-
in
Demo

2F
天平

6月15日(金)

会場:高知会館(高知県高知市本町 5-6-42, TEL 088-823-7123)

9:00~12:00	セッション7 これからのシステム開発 論文発表 「分散型デジタルライブラリの開発」 「Web EAI へのエージェント技術の応用」 「XMI に基づく UML メトリクスツール」 パネル パネリスト:河合 一夫(ニルソフトウェア), 中鉢 欣秀(慶應大学), 方 学芬(SRA先端技術研究所)	司会:伊藤 昌夫(ニルソフトウェア) 畑田 稔, 浦島 智, 鈴木 和彦(富山県立大学) 川添 恭平, 堀 雅和(インテック・ウェブ・アンド・ゲノム・インフォマティクス), 吉江 公伸(インテック) 久米田 暁文, 小室 睦(日立ソフトウェアエンジニアリング)
12:00~13:00	<昼休み>	
13:00~15:00	クロージングパネル 「IT は地方を救うか?」 パネリスト:菊池 豊(高知工科大), 松山 浩士(和歌山大) 他	司会:中野 秀男(大阪市大)
15:00~15:15	クロージング 最優秀論文賞発表ならびに表彰 次回開催予告	司会:塩谷 和範(SRA 先端技術研究所)

ツール
展示

Work-
in
Demo

2F
天平